

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300571		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームおとなりさん		
所在地	静岡県富士市五貫島175		
自己評価作成日	平成29年8月28日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ligvosvoCd=2272300571-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループの理念を職員全員が共通認識として寄り添うケアの実現に取り組み、職員の個人目標を立てサービスの質の向上に努めている。

・平成25年からISO9001認証取得し、顧客満足を目指しに取り組んでいる。

・湖山グループ、法人として人材育成に力を入れた研修、勉強会の体制がある。

・平屋造りの建物、天井も吹き抜けで、開放感のある施設です。畑では季節の野菜、庭では果樹や季節の花が咲き、デッキから四季を感じることができる環境があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から16年となりますが、毎年気持ち新たに「法人→事業所→個人」とトップダウンで目標作成に取り組み、全て事務所に掲示のうえ「こやまケア」を共有していて、職員一人ひとりの立居振舞、言葉遣いに介護職としてのクオリティの高さを感じます。また若い職員が多く、例えば「伴侶とよく出掛けた清水へ」と同行する等フットワークよく、利用者本人の想いを叶えることにも長けています。家族が草取りに訪れたり、ピアノの先生の音楽ボランティアがあったりと、日頃から人の賑わいがあり、先日はサマーショートのボランティア訪問で高校生とかき氷と一緒に楽しみ、蜜柑をハート型に飾り付ける「初めて」の体験もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、法人事業計画を基に施設事業計画を作成し、施設目標から個人目標につなげ、ケアの質向上に努めている	毎年気持ちを新たに「法人→事業所→個人」とトップダウンで計画及び目標作成に取組み、全て事務所に掲示しています。利用者本人の想いを叶えようとの企画案が挙がっていることから実践を確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、介護、看護実習生の受け入れを積極的に行い、運営推進会議において区長、児童民生委員の方への情報発信と意見交換を行っている	ピアノの先生が毎月訪れ、オルガンの音色に癒しを得つつ唄声も自然にでています。また隣接の老人介護保健施設主催の認知症カフェは2年目を迎え、地域の人が集うなかには利用者の笑顔も咲いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かけ込み110番の協力。実習生の受け入れや見学対応と相談対応等をおこなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催。経過月の報告以外で相談、アドバイスについて全体会議等で改善検討している。会議をフロアで行うなど日常生活、過ごし方も見ていただいている	開設から16年つつがなく隔月開催ができていて、法改正では市の説明をもらえるほか民生委員を通じてボランティア訪問も増えています。職員異動や預り金と細部に渡って報告していて、詳らかにとの姿勢が伝わります。	型どおりできていますが、できれば「事業所にとって何か役立つための目標」があると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、市職員にアドバイス、ご意見をいただいている。相談いただいた内容により直接介護保険課に連絡相談をしている	集団指導、グループホーム連絡会には必ず出向き情報共有に努め、連絡会では他の事業所から気づきやアイデアを得ています。地域包括支援センター主宰の研究会、講座にも極力参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関等の施錠は行っていない。身体拘束の研修を新人職員に必ず実施し、年間の研修、勉強会でも行っている	法人の年間研修にも位置付けられ、所内でも何かにつけ話し合おうとの文化も定着しています。夜間勤務は1名のため、緊急時には隣設している同法人事業所の5名がフォローする態勢が出来ていて、その点では単独事業所に比べ安心です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての研修に参加し、日々の業務に生かされるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修参加や、勉強会等の機会ができていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項内容について説明し変更時は家族会での説明、個々に説明対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートの実施をしている 内容に対する改善、実施、報告をおこない、アンケート結果と改善内容について個別にて郵送報告している	面会では管理者や居室担当が不在でも日頃の様子を伝えることもでき、法人の家族アンケートで挙げたことも速やかに取入れ、近所に住む家族が度々庭の草取りをしてくださる応援もあるほど親交が深まっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談と必要に応じての面談や相談に対応している。新人、中途入職者には、OJTチェック表にて全職員での育成体制を図っている	プリセプター制度や個人目標の設定等、新人が育つ仕組みを背景に、会議では一人ひとりにふって全員発言に至り、さらに管理者自身が「新しい風がある、ことが大切」として、チャレンジ精神にも拍車がかかります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標設定をし定期的な目標進捗確認を行い、意欲向上につなげるようにしている。リフレッシュ休暇、ハッピー休暇取得制度を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や併設しているききょうの郷での勉強会に参加をし職員のスキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会、グループホーム連絡会に参加。情報交流を行っています。交流会等での職員同士の交流の中でケアの質向上を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定前に本人・家族面談を行い、アセスメント情報の共有のため判定会を行っています。日常生活でのお客様の声に耳を傾け、企画実施等による馴染みの関係性を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に重要事項説明を行い、ここまでに至った経緯や苦労した話を聞き、今後の生活の中で要望を取り入れる努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に現段階でどのようなサービスが必要か見極め対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が得意なことや過去の生活歴を職員同士背情報共有し、ご自身でできることを生活の中で職員と一緒に行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	慰問企画や外出企画でご家族も一緒に参加し過ごす時間とれるように考えている。日頃の様子も面会時に会話の中から伝えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の重度化も進み、外出することも困難になってきている。友人や、親類の方の来訪を歓迎し、一緒に過ごす時間を設けていただくよう支援している	面会では居室でゆっくりしてもらえ、年末・年始の帰省もみられ、遠くに住む家族は毎月届く写真入りの、居室担当の手紙を抛り処としています。裁縫箱を持ち込んでいる人にはほつれを修繕してもらったりもしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお客様の席配置を考慮し職員と一緒に笑顔で過ごせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去され退去されてしまうときも通夜等に参列させていただいたり、お客様が過ごされた思い出の場として、いつでもお立ち寄りくださいと伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族からいただいた意見等をカンファレンス会議にて検討している	24時間シートを介して生活リズムを掴むことができ、1対1となる歯磨きや入浴では想いが聴ける場として、ふと漏らした言葉からの実現が自然におこなわれ、例えば「肉が好き」と解ればレストランにでかけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集やカンファレンス会議で確認をし、定期的なモニタリング・アセスメントを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や健康状態を記録し、申し送りを通じ現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員の意見を反映し介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族も加わり、介護計画書には「きっちりやるだよ」と本人の言葉がそのまま記載され、温かみとともに理念「自分らしくいきいき暮らしたい」を実践しての本人本位のケアがあることが受けとめられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が個々に日々の生活記録や医療・家族連携記録等に記入し、職員間で朝夕の申し送りや情報共有を行っている。定期的なモニタリングと各担当の意見を反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各主治医、併設施設(老健)、同法人病院(湖山リハビリテーション病院)との連携を図りお客様の希望に応える努力をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、慰問等で地域との交流の場を設けている。グループホーム連絡会に参加し情報共有や交流会にも参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各主治医と定期的な往診対応にて連携を図っている	急変時での対応もスムーズなことから訪問診療をおこなう協力医に変更していて、法人看護師と管理者が立ち合い、医療連携記録で共有できています。医師は認知症専門医を含め3名おり、家族に選んでもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設(老健)の看護師に定期的に来訪してもらい健康管理を行っている。緊急時対応等にも連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を取り、入院先への訪問で状況把握をし、病院関係、相談員、関係者との情報共有をサマリーや連絡等を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護」に取り組んでいる。契約時に方針を家族説明し、意向により主治医に相談、同意書を交わした後、会議で確認を行い取り組んでいる	法人看護師が気安く洗い物を手伝いながらA/DL変化を観察、バイタル数値では掴みにくい点も把握して此处2年で4名を見送り、「看取り介護を終えて」レポートで気持ちを吐露する機会もあります。遺族からは御礼の言葉が1周忌となっても舞い込んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが定期訓練まで行っていない。カンファレンス会議で各ケース対応等の話し合いは行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている。区長より地域住民に向けて協力依頼発信をしていた	朝8時半～と慌ただしい時間帯となる市の訓練にも同調し、また隣接の老健との合同訓練も在り、年5、6回の実施を誇り、また「通報ボタンを押す」「消火器の扱い」といった体験も職員の偏りがないように配慮しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアをグループで取組、施設間評価や自己評価等で意識づけを行っている。声掛けに関して個々で気づいた点を伝えるようにしている	その人のパーソナリティーやペースを理解しており、その場の感情の動きを機敏に察知してこやまケアを反映し、「本人が欲しい言葉を届けることができる」職員が育っていることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事などで「何か食べたいものは有りませんか？」等伺っている。小さな感情表現を大切にし、笑顔がでる関わりを行い、自己決定を尊重できるよう意識し、対応をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のスペースにあわせるよう心掛けているが不十分な時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容にて身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に会った食形態を検討実施している。食事の調理盛付食器拭き等を手伝っていただいている	主菜、副菜2品にデザートが付いて職員手作りの満足ゆく献立が提供されています。食が進まない利用者の手をさすりながら、都度言葉をかけて親身に介助する一方で、全体に話材を投げかけて楽しい団らんです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はその都度記録し摂取量を確保できるよう努めている。栄養バランスは外部業者がメニューコントロールし、現場では納品された原材料を調理する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。歯ブラシセット、義歯の消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本と考え、個別に合わせて対応している	バイタルチェック表、生活記録表で定時誘導をおこない、「トイレで座って」が全員叶っています。視力がなく、訴えもない人の動きを見てとって習慣を掴んだ例もあり、言葉のやりとりが難しいケースの支援も進んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り歩行支援を行い、蠕動運動を誘発できるよう支援している。食事のバランス、水分の摂取を心掛け下剤の使用を減らす努力をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度の重度化の伴い2人介助の方が増え職員配置を考えた時間で支援を行っている	「僅かでもいいから、湯船に浸かる喜びを」との考えを以て、重度化してもシャワーチェアに安易に替えず2人介助で支援しています。浴剤使用はなく、ゆず湯は毎年おこなっていて、鼻歌をうたう人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット、布団の用意等、今までの日常生活に近い生活環境の整備、体位の工夫、睡眠不足の翌日の生活の中で日中休息の時間を設けたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、内服薬チェック、申し送りにて確認をしている。主治医、薬剤師に相談確認をし変更時は家族説明報告を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	が家族からの情報提供、自立支援をさせていただき、施設の企画、個人の企画にて実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	企画を通じ外出をしている。ご家族の同行参加も促すようにしている	毎日ゴミだしを役割としている人いますが、隣接の老健の催事には大半の利用者が出入りする、が日常的にあります。「岩本山でヤッホーしたいね」「海外ならどこがいい？」と会話の中で意向把握をしつつ、月1回程度はお出かけが実現しています。	年に1度程度は家族も誘えるイベント的な外出企画もあると、なお良いと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として個人のお金を預かることはしていないが、外出や企画(お祭り等)で使用する金銭を仮払いとしてお渡しし使用分を請求する仕組みをとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状をかける方には書いていただいている。日頃の様子を担当職員が手紙にてご家族にお伝えしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう季節感のあるお客様の作品を掲示している。室温の調整、採光、換気等に気を配っている	感染対策委員2名を中心に衛生管理を徹底していて、蟻やゴキブリ等害虫駆除、洗面所や加湿器のカビ対策にまで清掃範囲を拡げており、清潔です。法人職員や利用者の家族が草刈や植栽に尽力くださり、庭も眺めがよいある空間に仕上がっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの座席は気の合った人との配席になって言いますが基本は自由に過ごしていただくこととしています。居室で横になりたい方にも対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものはご本人が以前から使用していたものや昔の写真、家族写真等を置くように心がけている	お洒落な出窓には自宅で使っていたという大きな目覚まし時計を置いたり、日々の暮らしとともに増えていく写真をチョイスして一つの額に納めてインテリアとしていたり、その人らしくキラリと光る工夫がみられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体が経年劣化の箇所もあるが危険箇所は保護等をするように職員が工夫をしている		